

首都圏から一番近い離島

初島散策マップ



初島アイランドリゾート
Hatsushima Island Resort

極楽鳥花と菘楠の群生地
アイランドリゾート内には極楽鳥花と菘楠・アロエの花が見ごろを迎えます。



初島灯台
昭和34年に設置された灯台で、日本で唯一外側に螺旋階段が付いた「日本で15番目の登れる灯台」です。晴れた日は、伊豆諸島や江の島、遠くは房総半島まで見渡せます。
■営業時間 / 10:00~16:00
■料金 / 金 / 200円



菜の花畑
初島公園とアイランドリゾート内のトレーラーヴィラに菜の花畑が広がります。



アジアンガーデン R-Asia
何百種類もの亜熱帯植物が生い茂るアジアンガーデンR-Asiaは、アジアンフードやビール、トロピカルドリンクも楽しめるカフェやアジア直輸入の雑貨が買えるショップがあります。



石割の松
クロマツが大きな石の隙を割るように生育している様子がかとてもダイナミックです。



海泉浴「島の湯」
漏船に浸かりながら海に溶け込み、海のぬかを感じられる、島だからこそ実現できた海岸線ぎりぎりの露天風呂です。
■料金 / 大人(中学生以上) 800円
小人(小学生以下) 500円
※フェスティバル付



江戸城石切り場跡
島の東海岸には江戸時代に江戸城を修築するための石が切り出された跡が残されています。切り出す途中で取り残された石には、運ぶためにあけた「矢穴」の跡も残っています。



初島小中学校
島内唯一の学校は、平成9年に完成した日本最大級のログハウス型校舎です。また、校歌は多くのヒット曲を世に出している。作詞阿久悠さん、作曲三木たかしさんのコンビによるものです。



初島海洋資料館
島内の縄文遺跡からの出土品や初島沖水深1,174mにある深海底総合観測ステーションからの画像などが見られます。入館料無料



初木神社
初木神社例大祭(7/17・18)での鹿島踊りの奉納など、古代から変わらぬ島人の信仰の中心となっています。



初島の歴史と不思議伝説

■天保元年から現在まで住まう世帯はいつも41戸

江戸時代末期の天保元年(1830年)の記録にも41世帯とあり、島の世帯数は明治・大正・昭和を経て平成の現代まで変わっていません。それは島内の耕作地や水源が限られていることから、次男以下は島を出て、男子がない家は女子が婿をとって跡を継ぐという不文律が脈々と守られてきたためです。耕地や漁は共同作業で行われ、島の実りや漁獲はほぼ等分されてきました。



初島から熱海港を望む

■古墳時代から続く霊場「初木神社」

孝昭帝の御代に島に漂着した初木姫が祭られています。初木姫は伊豆山の伊豆山彦とのロマンスなど姫を巡る様々な物語が残されています。代々初木神社の神職を勤めてきた綱代の高杉家に残されている初木神社のご神体「懸仏(かけぶつ)」の制作年代から、創建は鎌倉時代以前であることが推定されますが、社殿の下からは、奈良時代よりさらにさかのぼる古墳時代(3世紀中葉~6世紀末葉)の祈りの場所である「磐倉(いわくら)」の跡が発見されています。現在でも初木神社例大祭(7/17・18)での鹿島踊りの奉納が島の一年でもっとも大きなイベントとなるなど、古代から変わらぬ島人の信仰の中心になっています。



初木神社

■海の中から現れた剣が祀られる「竜神宮」

昔、不漁が続いたとき、海の中から剣が現れ、それ以来、島は大漁の日々が続いたという言い伝えから、今でもその剣は港の傍の森の中にひっそりと佇む竜神宮に祀られ、大漁祈願の神として島民の信仰を集めています。毎年4月3日にはお祭りが行われ、海でとれた鯛やブリなどを供えて大漁を祈願します。島の人たちは毎年この日には漁を休み、大漁鉢巻を巻いて、榎の下で酒を酌み交わす慣わしです。



竜神宮

文学に見る「初島」

■与謝野晶子「初島紀行」

大正十年に歌人と謝野晶子が初島を訪れた際、満山に咲き乱れる椿と水仙を見て「満山の椿と水仙とを目にした質感は猶武陵桃源の趣がありました。」と紀行文「初島紀行」に書き残しました。



NEWSトピックス!

新船「イルドバカンスプレミア」
初島航路に、新しい船が就航予定。豪華な内装と白を基調とした端正なフォルムの外観とともに、リゾートクルーズの非日常空間をお楽しみください。



初島は、晴れた日は世界遺産「富士山」が見える島としても有名です。

Tel. 0557-81-0541